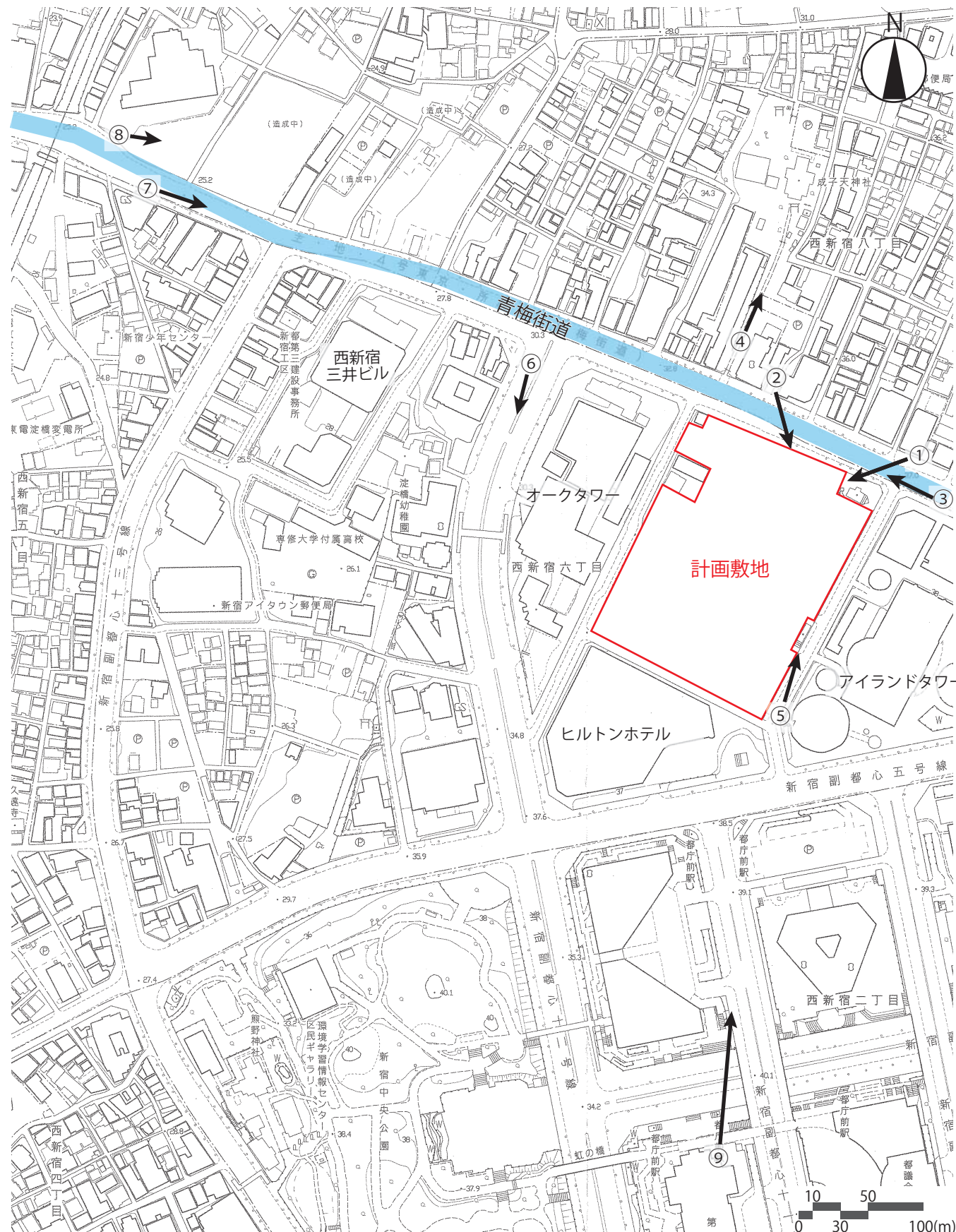


□ 計画概要

1. 案内図



2. 周辺現況写真



①青梅街道から



②青梅街道から



③東京医大病院前交差点から
青梅街道中野方面



④成子天神社



⑤区画街路2号から



⑥成子天神交差点から
新宿副都心12号線



⑦淀橋交差点から
青梅街道新宿方面



⑧淀橋交差点付近



⑨東京都庁から

3. 敷地概要

項目	内容
計画名称	学校法人東京医科大新大学病院新築計画 (仮称)
計画地	新宿区西新宿6丁目7-1
地区・地域	商業地域・防火地域・高度利用地区 (西新宿六丁目南地区 (Bゾーン)) 地区計画 (西新宿六丁目東部地区)・駐車場整備地区
容積率	950% ※最低限度 400% (高度利用地区)
建ぺい率	70% ※最低限度 300㎡ (高度利用地区)
敷地面積	22,325.65㎡

□ 上位計画について

1. 新宿区都市マスタープラン

「暮らしの賑わいの交流創造都市」

計画敷地：柏木地域（西新宿駅周辺）
「創造交流の心」

多様化・複合化していく新たな創造型産業を育てていくとともに、地域の人々や来訪者が交流しながらまちを楽しむことができるように、国際的な賑わいと交流を先導する。

○都市の骨格に関するまちづくり方針

「創造交流の心」として業務商業の発展に必要な都市基盤の整備を進めます。また、みどりや歩行者空間の充実を図り、歩いて楽しい環境の整備を進め、賑わいと活力のある21世紀を先導するまちづくりを進めていきます。

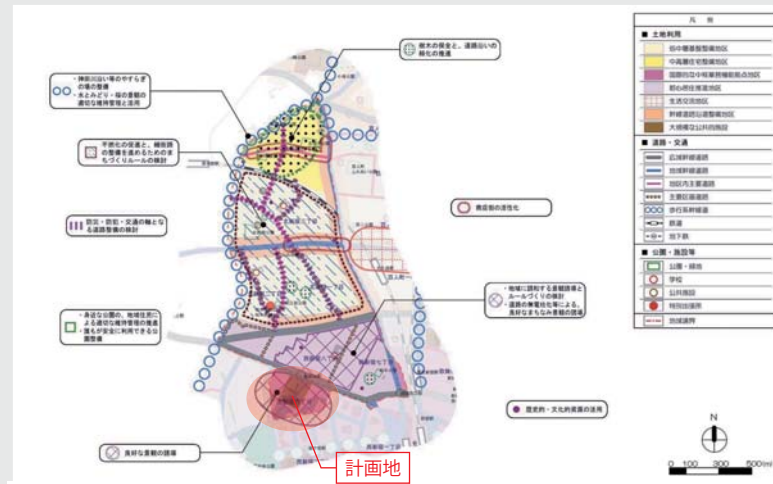
・みどり・公園

公共施設や寺社等のみどりを保全し、公園的空間としての活用を図ります。さらに、開発等により生じたオープンスペースを緑の広場とするよう事業者等を誘導していきます。

・都市アメニティ

地域に調和する建築物を誘導します。建築物の高さや色彩等が周辺のまちなみに調和したものとなるよう、地区計画等のまちづくり制度の活用を検討していきます。

4 柏木地域まちづくり方針図



出典：新宿区都市マスタープラン

2. 新宿区景観まちづくり計画

○新宿区における景観まちづくり

・まちの記憶をいかした「美しい新宿」をつくる

○良好な景観の形成に関する方針

- 視点1 変化に富んだ地形をいかす
- 視点2 まちの記憶をいかす
- 視点3 水とみどりをいかす

区分地区の景観形成基準：一般地域

■ 建築物の建築等	
形成・意匠	○外壁の色彩や素材は、隣接する建築物や周辺景観との調和を図る。 ○形態意匠は、建築物単体のバランスだけでなく、隣接する建築物や周辺景観との調和を図る。
その他	○敷地内に歴史的な建造物や残すべき自然などがある場合は、積極的にこれらをいかす。 ○隣接する建築物の壁面等の位置を考慮した配置とする。 ○附帯する設備等は、建築物と一体的に計画するか、歩行者や水平方向からの見え方に配慮し、緑化や目隠しなどによる修景を行う。 ○附帯する構造物や施設等は、建築物との調和を図るとともに、歩行者からの見え方に配慮した修景をする。 ○外構は、敷地内のデザインだけでなく、隣接する敷地や道路など、周辺景観との調和を図る。 ○敷地内は出来る限り緑化を行う。 ○夜間の景観に配慮し、周辺の景観に応じた照明を行う。 ○ビル名や店名等の自家用広告物、第三者広告物等の屋外広告物の掲出については、建築物の設計の早い段階から、周辺景観や建築物等へ配慮する。

出典：新宿景観まちづくり計画

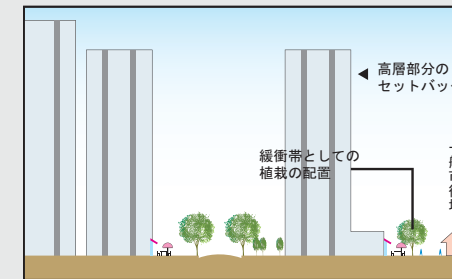
3. 景観形成ガイドライン

○柏木南再開発エリア

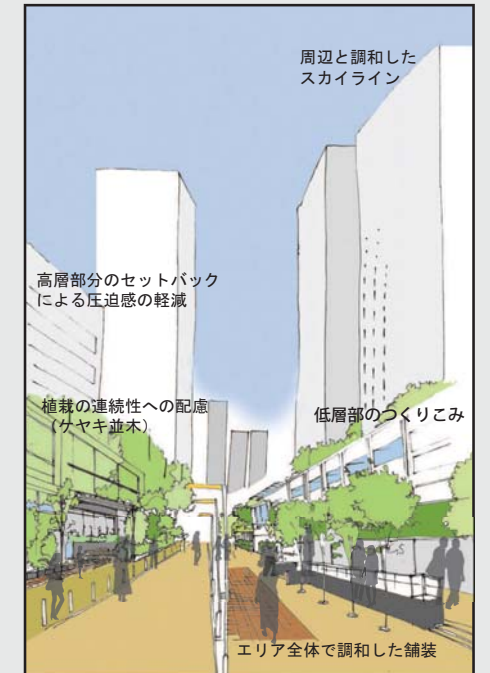
「超高層エリアや一般市街地とも調和した再開発のまちなみへ」

○景観形成の方針

- ・超高層エリアと各街区が調和した景観をつくる
再開発の各事業地区間や超高層エリアとの関係性にも配慮し、全体として調和した景観の形成を図る。
- ・幹線道路や区画街路沿道に快適な歩行者空間をつくる
幹線道路や区画街路沿道に見られる広幅員の歩道を、歩く人にとって快適でエリア全体として調和のとれたものとする。
- ・周辺の一般市街地とも調和した景観をつくる
超高層エリアと一般市街地に挟まれる本エリアでは、一般市街地へ配慮した景観形成を図る。



一般市街地とも調和した景観



沿道の快適な歩行者空間

景観特性

- 【凡例】
- 神社
 - 境内地
 - 公園
 - パブリックアート
 - 連続するみどり(ケヤキ)
 - 連続するみどり(その他:街路樹)
 - 連続するみどり(その他:民地の植栽)
 - 景観上重要な道路(ケヤキ並木の道)
 - 幹線道路
 - 坂道(下から上)
 - エリア境界



新宿アイランド



北新宿地区(予定)



成子天神社



西新宿・成子地区(予定)

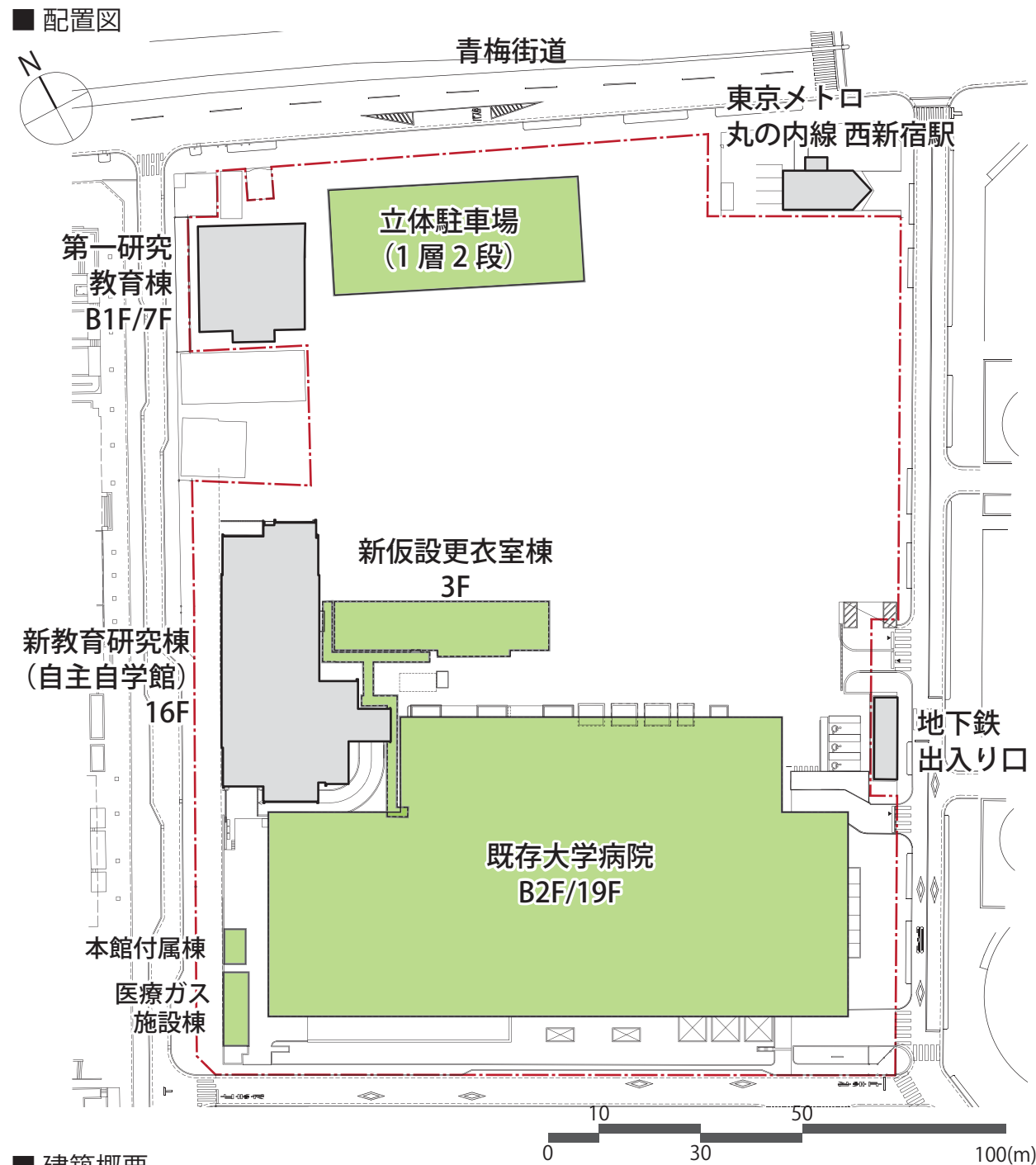


新宿中央公園



出典：新宿景観形成ガイドライン

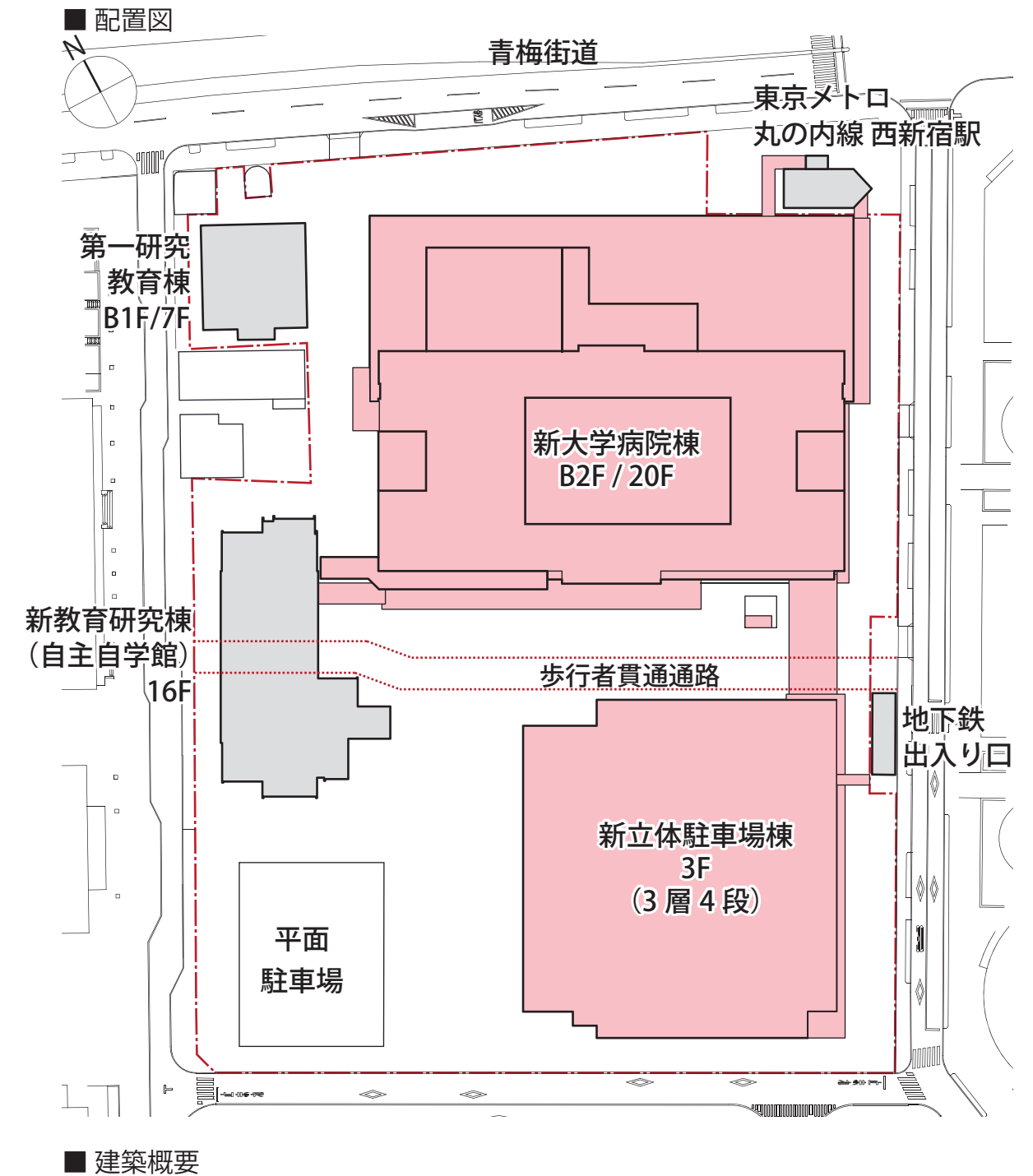
1. 現況



■ 建築概要

項目	内容
主用途	大学 (附属病院)
規模	地上19階、地下2階
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
最高高さ	約84m
建築面積	約8,500㎡
延べ面積	約95,000㎡

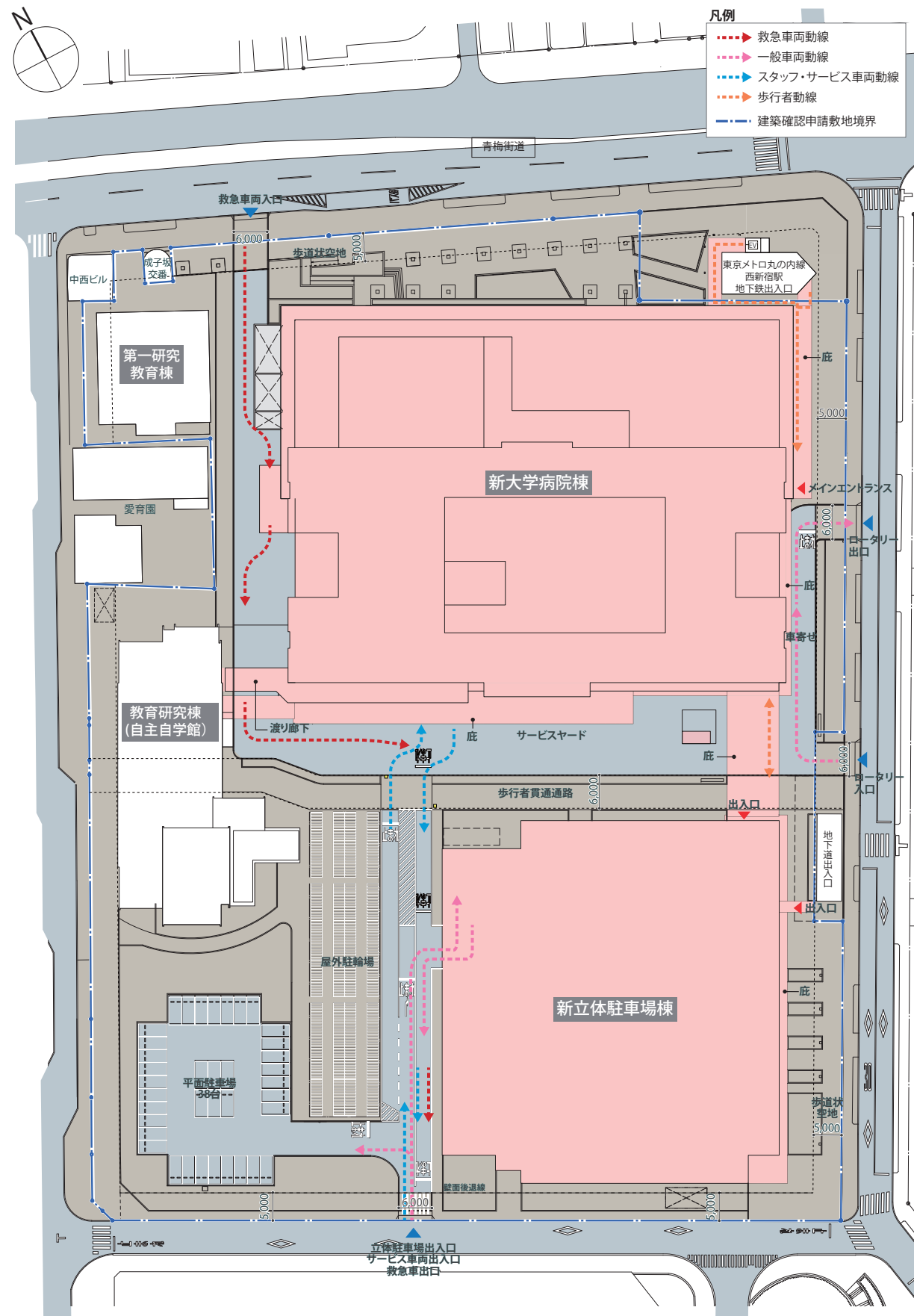
2. 計画



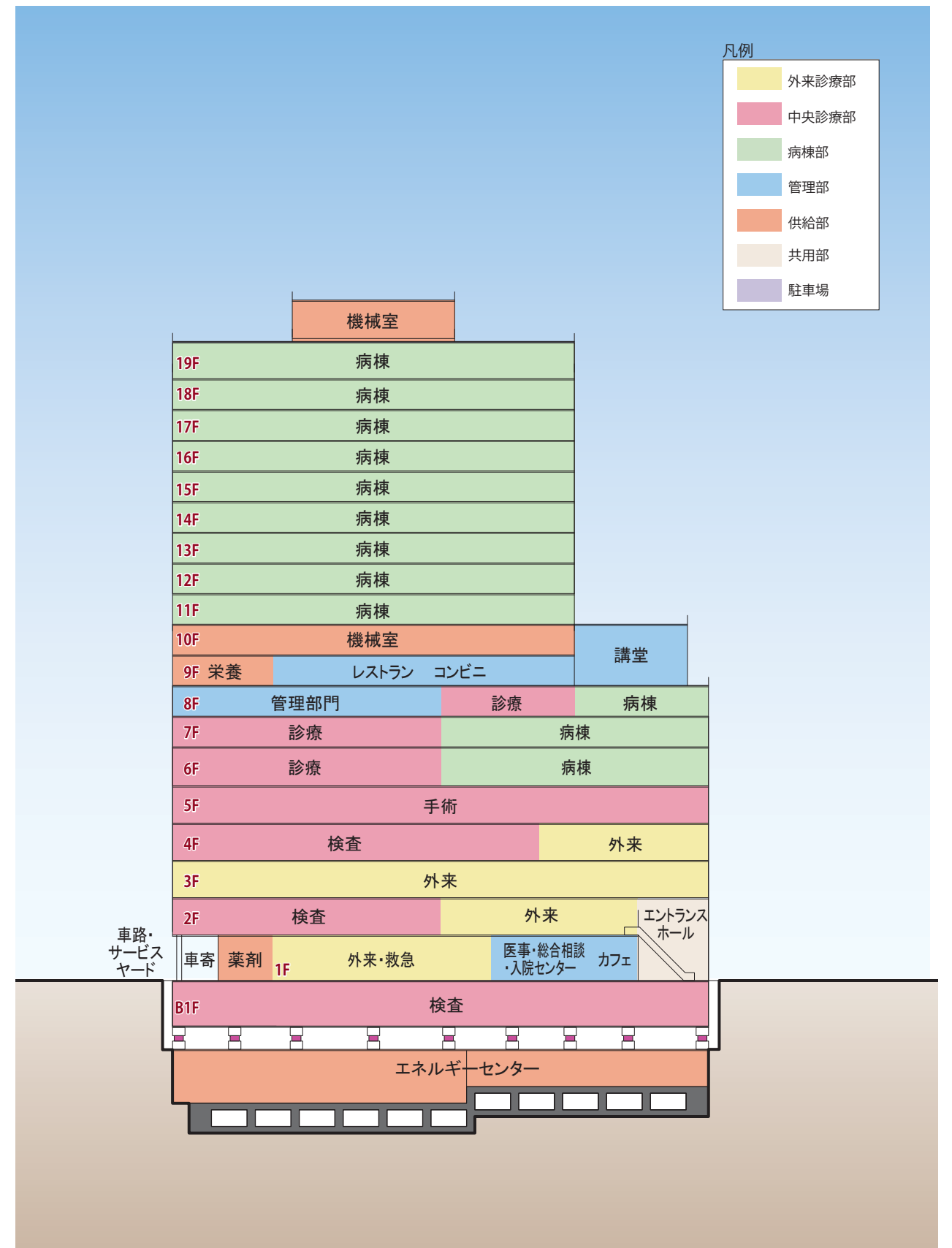
■ 建築概要

項目	内容
主用途	大学 (附属病院)
規模	地上20階、地下2階、搭屋1階
構造	鉄骨造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造)
最高高さ	約92m
建築面積	約12,500㎡
延べ面積	約130,000㎡

5. 動線計画図



6. 断面構成図

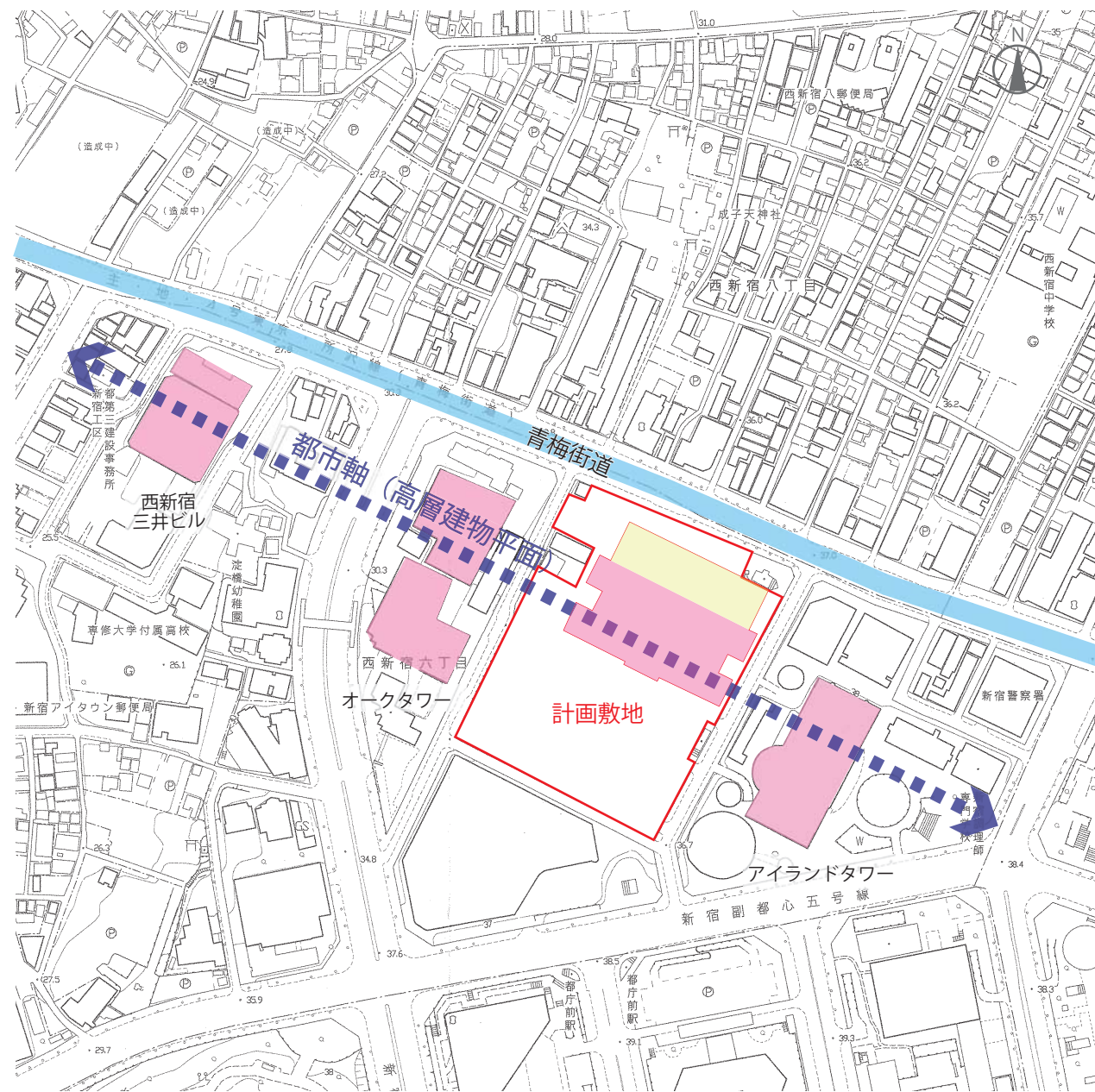


□配置計画

周辺建物が形成する地域の特性を生かした配置計画を行い、調和のとれた都市景観を創り出します。

1. 都市軸に合わせた配置

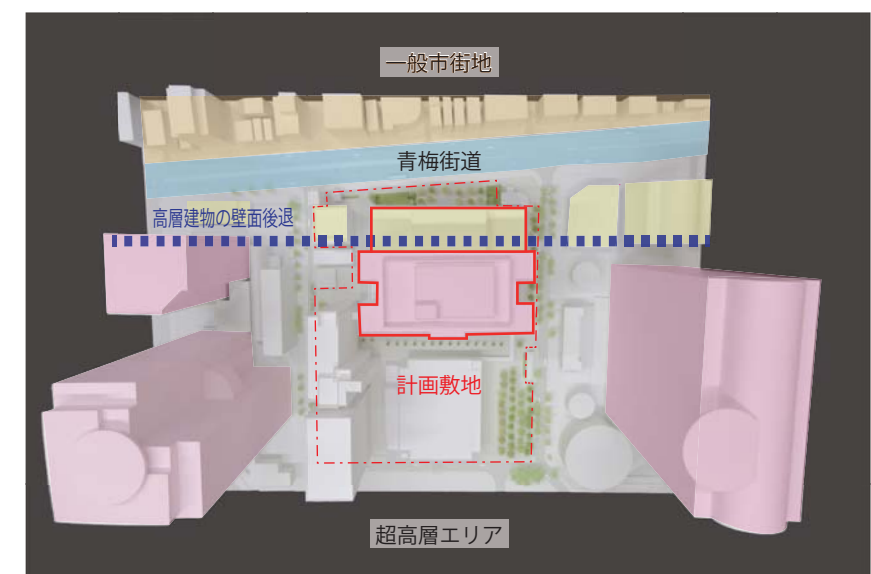
計画敷地周辺の青梅街道に面する高層建物は、青梅街道から壁面を後退させた配置計画が行われており、青梅街道の軸とは異なる都市軸（高層建物平面）によって建てられています。この都市軸を建物配置の軸とし、高層ビル群としての連続性に配慮した計画を行います。



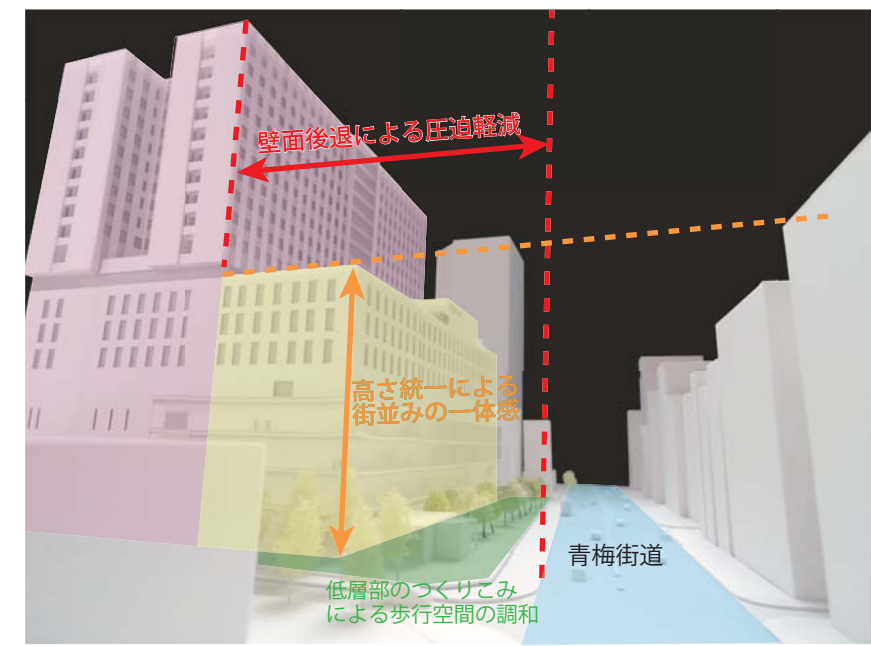
周辺見取図

2. 圧迫感を軽減する配置

計画敷地は一般市街地エリアと超高層エリアの境目に位置しています。そのため、青梅街道側に面して低層棟を配置し、その背後に高層棟を配置する事で、青梅街道に対する圧迫感を軽減を図ります。また、青梅街道の対面にある低層建物と高さを合わせ、低層部のつくりこみを行うことで、調和のとれた街並みの形成に寄与します。



鳥瞰

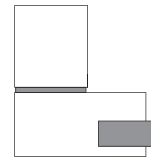


敷地北側・青梅街道より

□ 外観コンセプト

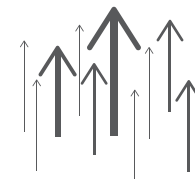
1. ボリュームの分節

建物ボリュームを平坦にまとめるのではなく、明快に分節することで、高層棟・低層棟・ガラスボリュームの各々の形状が際立ち、洗練された印象の外観を創出します。



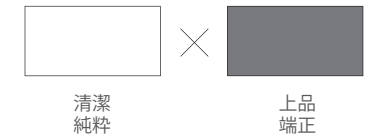
2. 端正な縦のデザイン

建物の縦方向を強調したデザインは、全体を端正に魅せる効果があります。これにより、自ら育ち、自ら高める病院の姿勢を表現します。

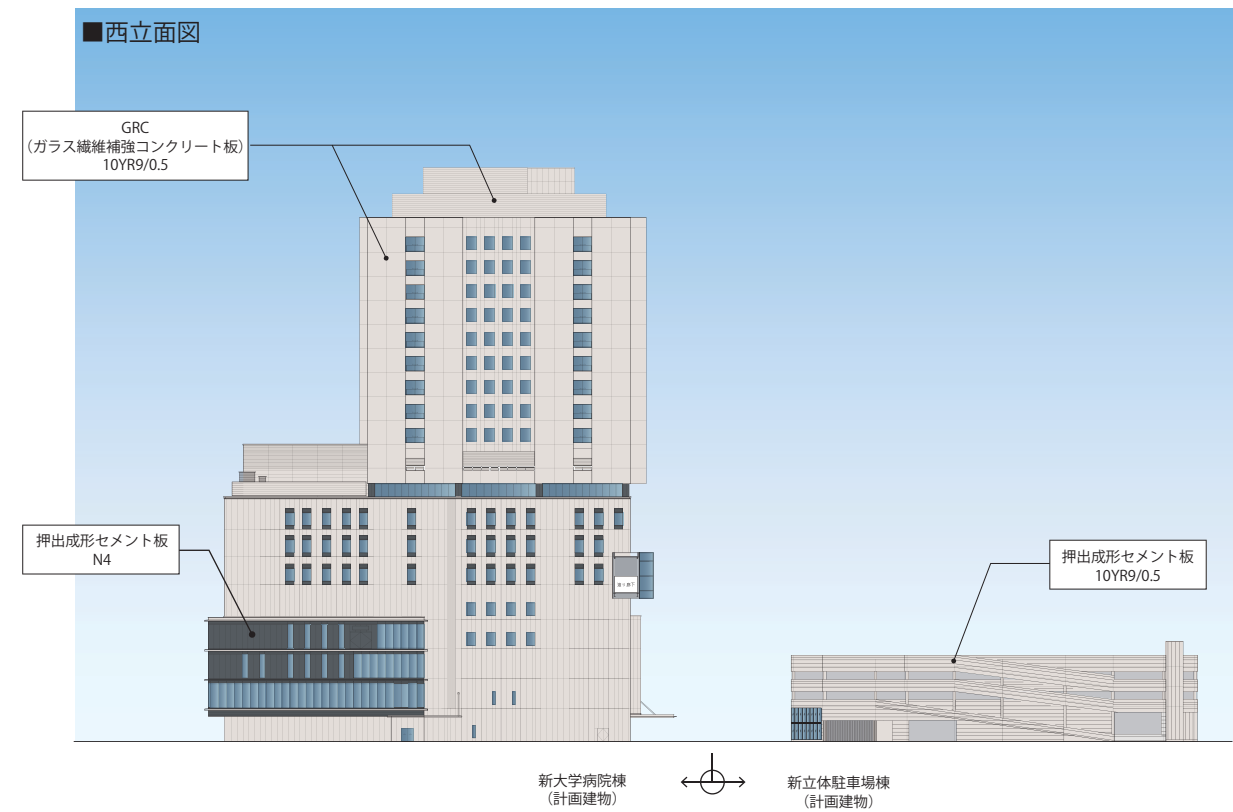
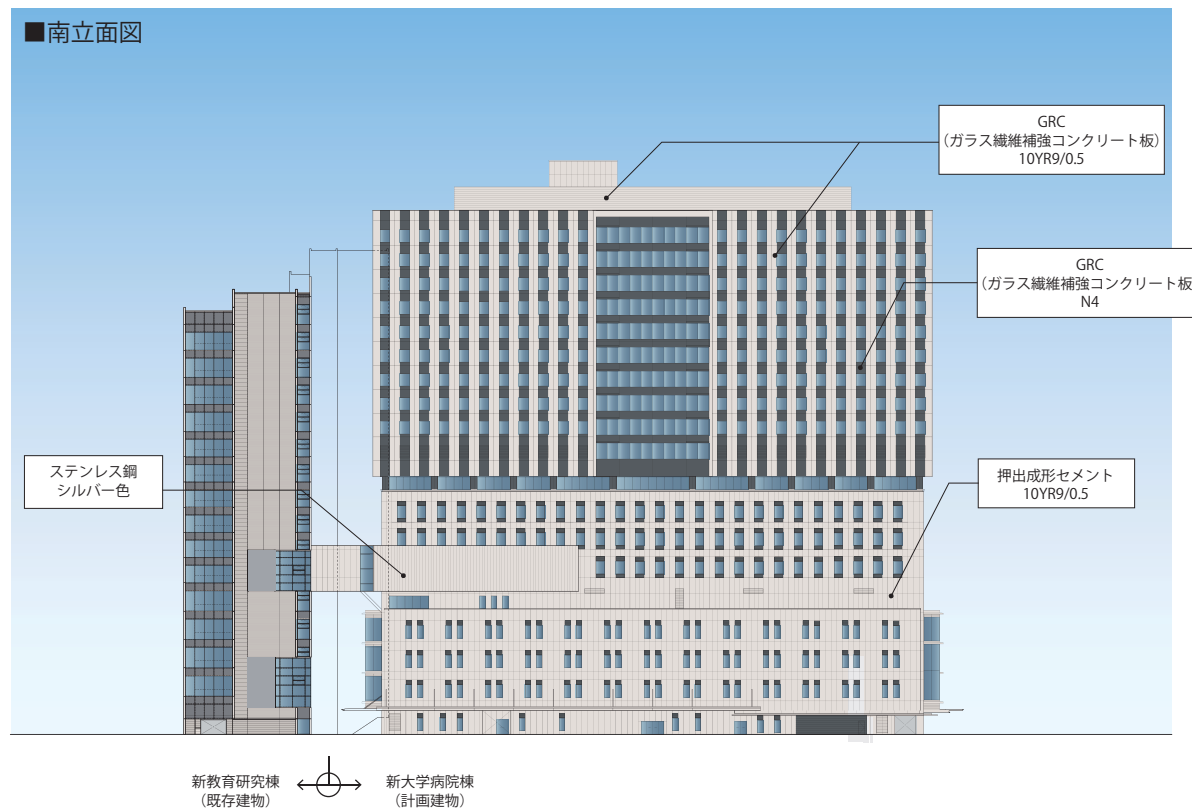
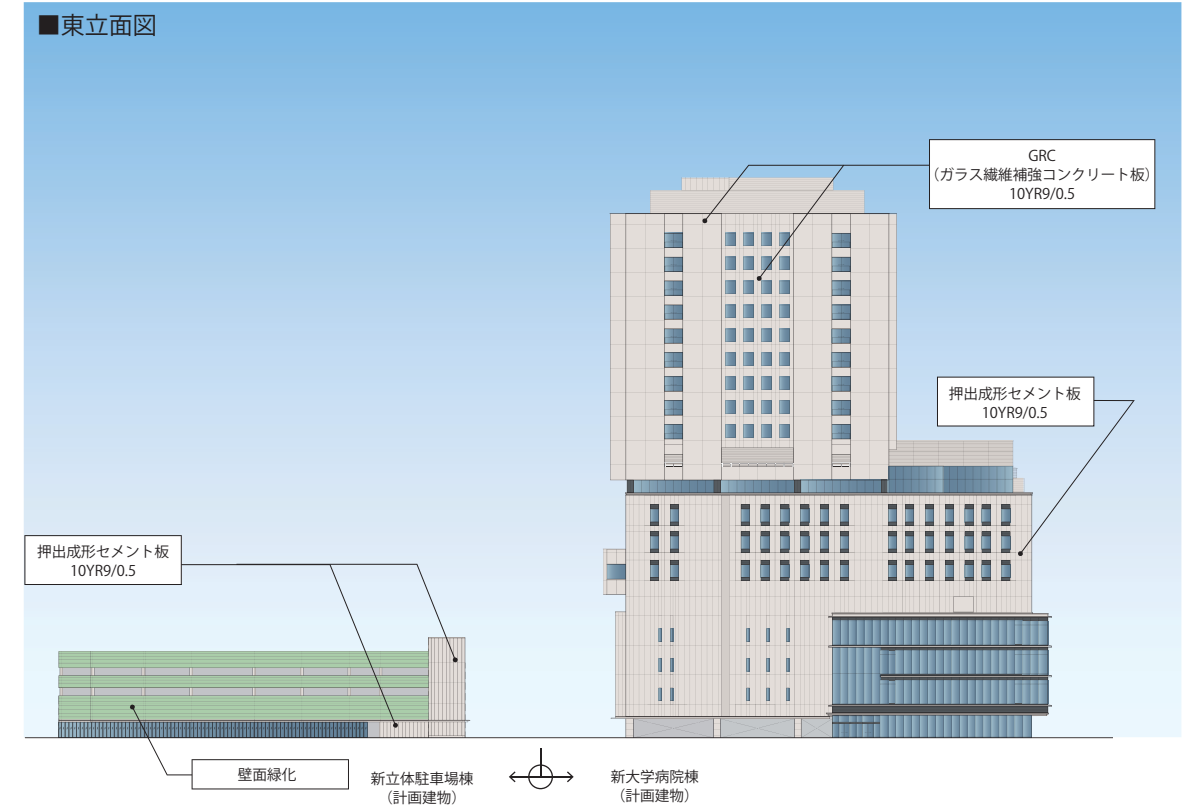
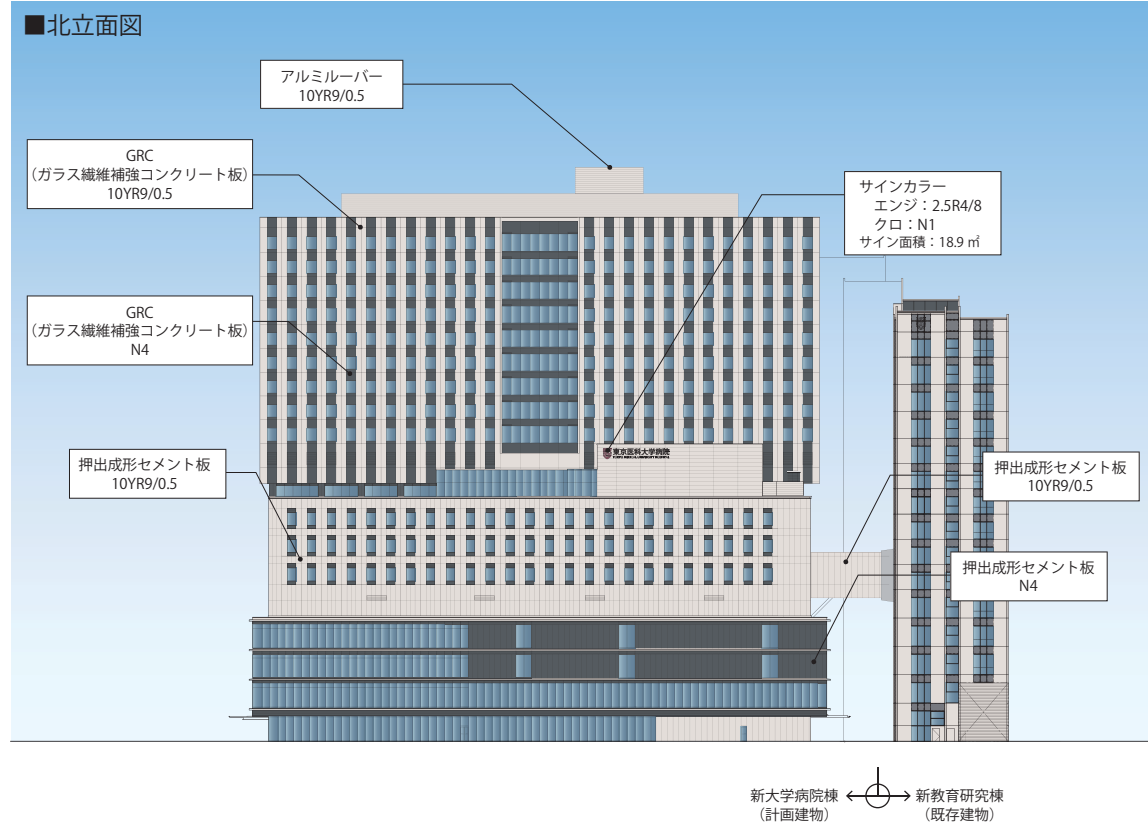


3. 清潔な色彩

外壁の色彩は清潔感のある白をベースカラーとし、アクセントカラーにグレーを用いて全体を引き締め、高度医療を担う大学病院に相応しい外観を実現します。



□ 立面図



□ ランドスケープの考え方

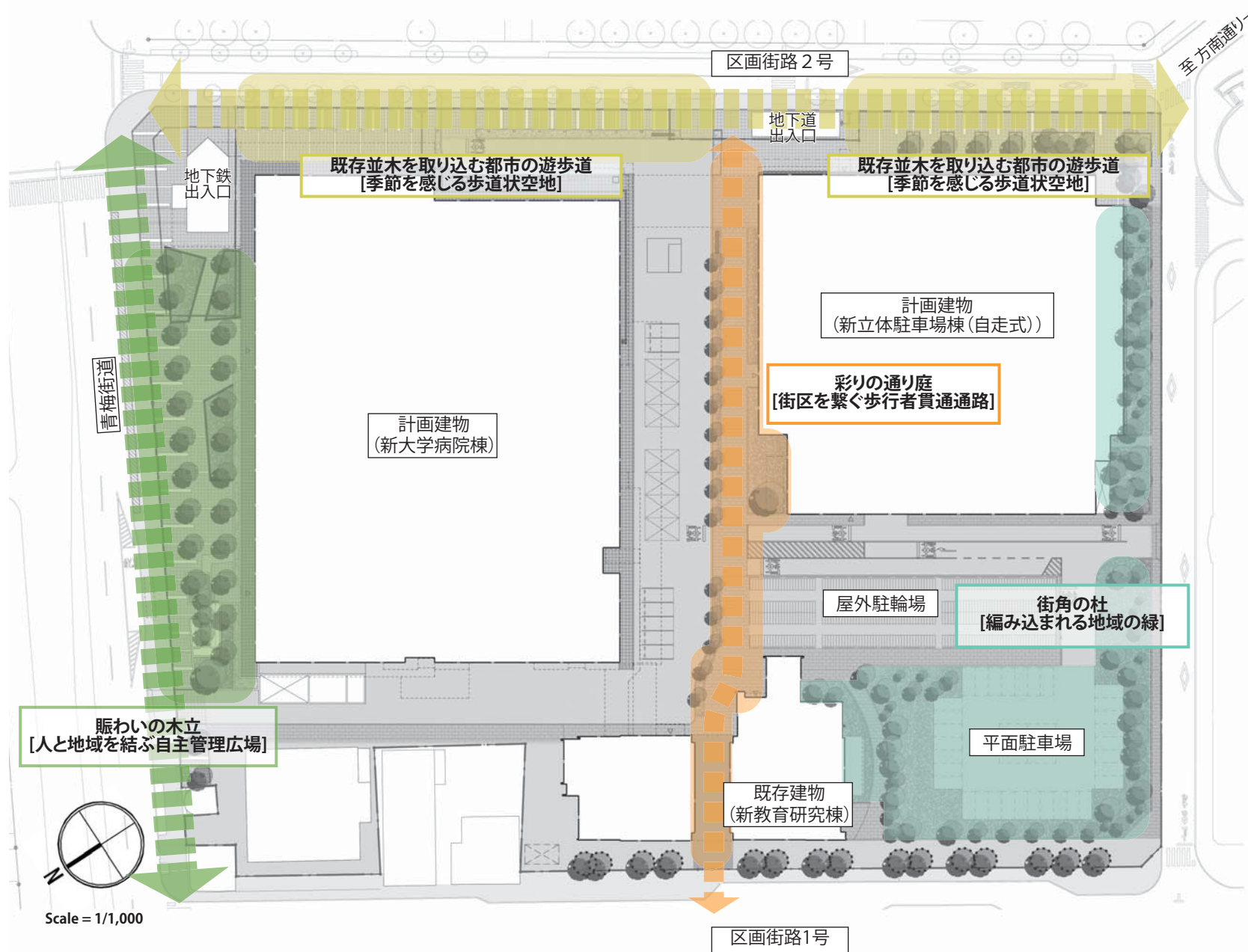
“Hospital in the Season”

— 季節を纏う(まとう)病院 —

季節感溢れる病院環境の創出

- ・異なる趣きをもつ緑豊かな歩行者空間が、都市に潤いと癒しを与え、新たな病院の顔を形成します。
- ・彩りに富んだ植栽により、敷地に四季の変化と生命力を織り込み、『都心の“Season Place”』を創ります。
- ・周辺緑地や隣接街区の緑の特性に関連づけた植栽により、都市の生物多様性、緑の連続性に配慮します。

□ ランドスケープの全体構成



■ 既存並木を取り込む都市の遊歩道 — 季節を感じる歩道状空地 —

区道2号線沿いでは、青梅街道-方南通り間の歩行者の往来や地下鉄への出入りを許容するゆったりとした幅員の歩行者空間を創出します。既存のメタセコイアの並木を活かした季節変化を感じさせる歩行者空間とします。隣接街区の列植に合わせた常緑樹の木立が、街角に統一感と潤いを与えます。



季節感を創出するメタセコイアの列植のイメージ



常緑樹の木立のイメージ

■ 賑わいの木立 — 人と地域を結ぶ自主管理広場 —

青梅街道沿いの自主管理広場では、多目的な木立状のオープンスペースを設けます。クスノキ等の常緑樹により、心地よい緑陰空間を創りだし、都会に癒しを与えます。計画地の顔として、病院利用者のみならず地域にも親しまれる広場空間を目指します。



多目的な木立の広場のイメージ



面的な低木地被植栽による広場づくりのイメージ

■ 彩りの通り庭 — 街区を繋ぐ歩行者貫通路 —

敷地の東西を繋ぐ歩行者貫通路では、中高木の列植により、歩車道を区切ると共に、バックヤードへの視線を柔らかく遮り、気持ちの良い安全な歩行者空間を創出します。多種の低木地被植栽により、彩り豊かで多様感のある通り庭とします。



歩車道を区切る中高木の列植のイメージ



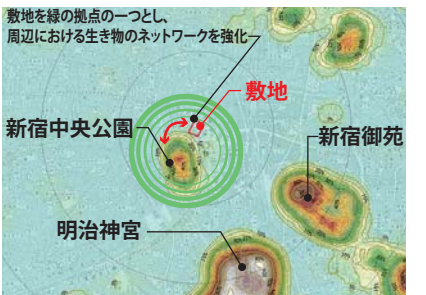
彩り豊かな低木地被植栽のイメージ

■ 街角の杜

— 編み込まれる地域の緑 —
区道1号線及び5号線沿いには、駐車場等を囲う緑濃い植栽帯を形成します。地域の緑の連続性を考慮した植栽計画を行い、地域全体の生物多様性に配慮します。



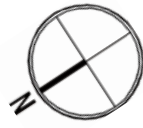
緑濃い植栽帯のイメージ



敷地周辺における樹林のネットワーク図

□ 植栽計画の考え方

- ・青梅街道、各区道の歩行者ネットワークや特性に対応した植栽計画とします。
- ・歩車道の区分や見通しなど、歩行者の安全性に配慮した植栽構成(立体構成)とします。
- ・多種の低木・地被植物により、彩りと四季の変化が感じられる植栽計画とします。
- ・周辺街区との緑の連続性や地域植生に配慮した高木植栽とします。



Scale = 1/800

■クスノキによる木立を形成し、足元の広場空間に心地よい緑陰空間を創出します。クスノキと樹高を抑えた低木地被植栽により構成し、歩行者の視線の抜ける広々とした印象の広場とします。多種の低木・地被植物の混植により、青梅街道に面した計画地の顔に相応しい、賑わいが感じられる植栽とします。



クスノキ アベリア
マホニアコンフューサ

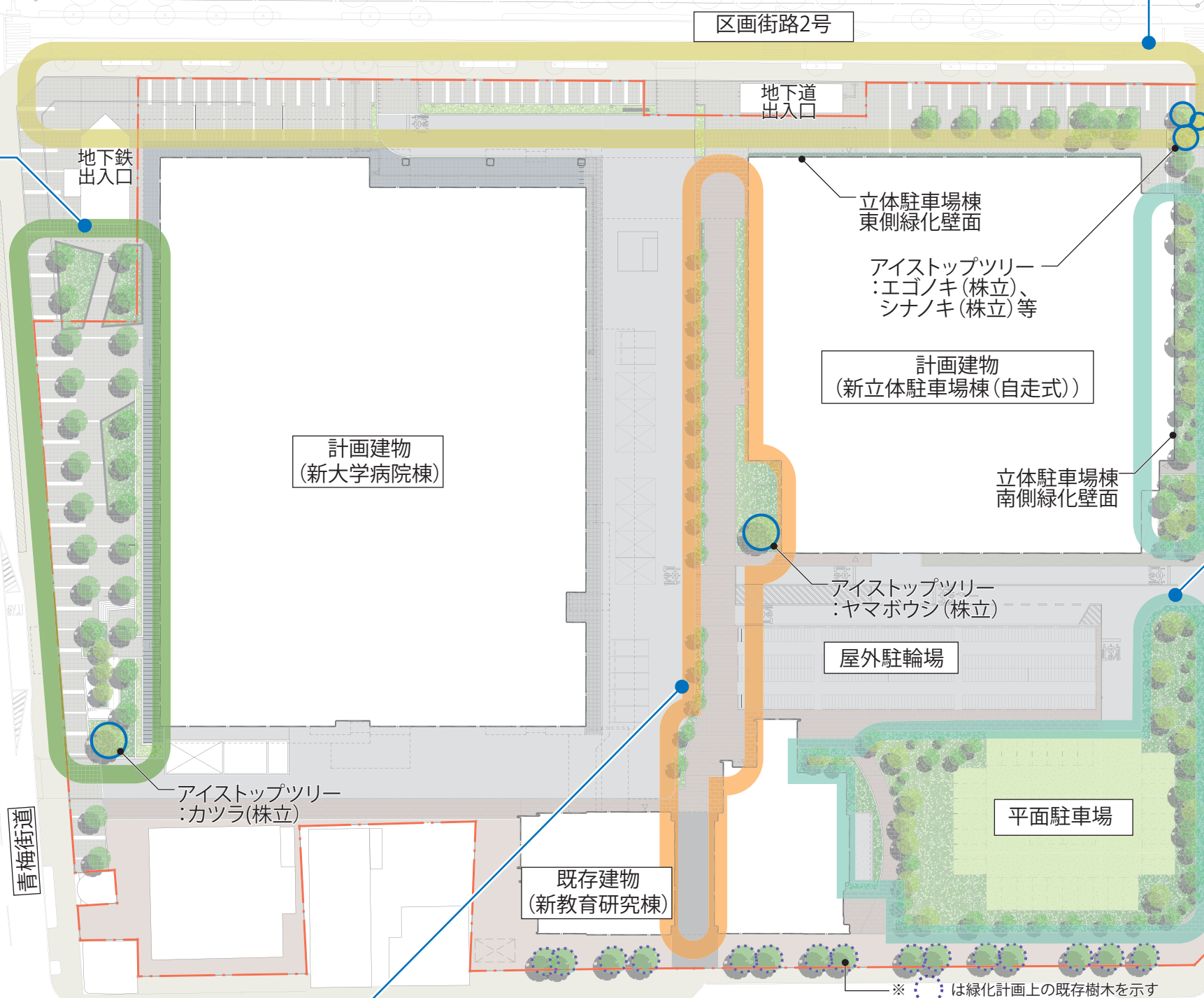
- 主要構成樹種
高木類:クスノキ(H=7.0m程度)
低木・地被:アベリア、マホニアコンフューサ、ハクチョウゲ、フィリアオキ、ツツジ類、リュウノヒゲ、フッキソウ等(H=0.3m~)

■広場のアイストップとなる落葉高木(カツラ)を配植します。青梅街道沿いの景観に季節感を創り出します。



カツラ(株立) フィリフェラオーレア

- 主要構成樹種
高木類:カツラ(株立)、ハナミズキ(H=7.0~5.0m程度)
低木・地被:アベリア、フィリフェラオーレア、ヤブラン等(H=0.3m~)



■中高木の列植により、バックヤードへの視線を柔らかく遮ります。带状の低木植栽により、安全性を確保しつつ、連続したリズム感ある通り庭を創出します。

- 主要構成樹種
高木類:ヒメユズリハ(H=3.0m程度)
低木・地被:フィリヒイラギナンテン、ツツジ類、フィリアオキ、ハマヒサカキ、オタフクナンテン、フィリヤブラン等(H=0.5m~)



ヒメユズリハ フィリアオキ

■日影環境などに配慮しつつ、彩りある多種の低木・地被植物により、多様感のある通り庭を創出します。立体駐車場棟北側角地にアイストップとなる落葉高木を配植し、通り庭のアクセントとします。

- 主要構成樹種
高木類:ヤマボウシ(株立)(H=5.0m程度)
低木・地被:アセビ、フィリヒイラギナンテン、フィリアオキ、フッキソウ等(H=0.5m~)



ヤマボウシ(株立) フィリヒイラギナンテン フッキソウ

■既存のメタセコイア並木による季節感を活かしつつ、低木地被植栽を主体とした豊かな歩行者空間を実現します。



季節感を創出するメタセコイアの列植のイメージ

■方南通り側からの視線に対し、落葉樹による緑の木立を設けます。隣接街区の列植に合わせた常緑樹(シラカシ)の列植が、街角に統一感を与えると共に、防風効果を高めます。また、足元の低木地被植栽が街角に季節感を創出します。



シラカシ オガタマノキ ソヨゴ

- 主要構成樹種
高木類:シラカシ、オガタマノキ、ソヨゴ等(H=5.0m程度)
低木・地被:ハクチョウゲ、ヤブラン等(H=0.4m~)

■幅員を広くとった植栽帯の中に中高木、低木、地被植物を多段的に配植し、緑濃い樹林地を形成します。常緑樹を主体とし、立体駐車場棟・平面駐車場などへの視線を遮るとともに、落葉を織り交ぜることで季節感ある都市の緑の拠点創出を図ります。



ハナミズキ ヤマボウシ アセビ

- 主要構成樹種
高木類:シラカシ、ソヨゴ、ユズリハ、ヒイラギモクセイ、ウバメガシ、ヤブツバキ、エゴノキ、ハナミズキ、ヤマボウシ、イロハモミジ等(H=5.0~2.0m程度)
低木・地被:アセビ、ハマヒサカキ、ジンチョウゲ、ツツジ類、ハクチョウゲ、ヤブラン、リュウノヒゲ等(H=0.5m~)

■全体スケジュール

